

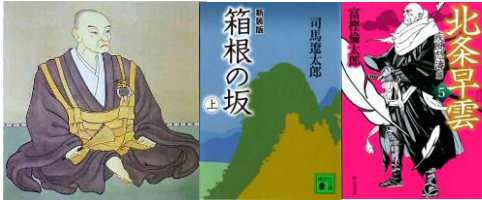
甲状腺外科草子 73

伊勢新九郎の廿一箇条：北条早雲

杉野 圭三

天下の三悪人と呼ばれた北条早雲(1456?—1519)。斎藤道三や松永久秀と並び、悪名高く浪人から近隣の領土を略奪し、成りあがった下剋上の代名詞のように言われてきたが、最近では室町幕府の執事の伊勢氏の出自(伊勢新九郎)との説が有力で、伊勢新九郎盛時、伊勢宗瑞、早雲庵宗瑞、早雲寺殿、菰山殿など多彩な呼び名が知られている。

以前から高く評価され、小説などでも度々取り上げられた。その戦いを振り返る。



北条早雲

駿河の戦い：早雲は今川家家督争いに介入し、甥の龍王丸(今川氏親)を補佐し1479年駿河館を襲撃、氏親を今川家当主として擁立した。

伊豆の戦い：1493年に堀川公方の家督争いに介入し堀川御所を襲撃し、伊豆を平定。

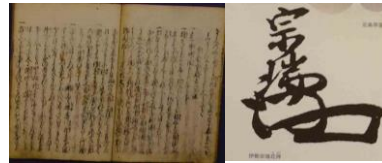
小田原城攻略：1495年、千頭の牛の角に松明をつけ、背後の箱根山から襲撃し、小田原城を奪取したとの伝説を残した。

相模平定：相模へ侵攻し、1516年三浦氏を滅ぼし、1518年家督を北条氏綱に譲った。

後年、北条早雲と呼ばれるようになった男の家訓である**早雲寺殿廿一箇条**を記す。

- 一、可信佛神事(神仏を信ずること)
- 二、朝早可起事(朝は早く起きること)
- 三、夕早可寝事(夜は早く寝ること)
- 四、手水事(万事慎み深くすること)
- 五、拝事(礼拝を欠かさぬこと)
- 六、刀衣裳事(質素儉約を旨とすること)
- 七、結髪事(常に身だしなみを整えること)
- 八、出仕事(場の状況を見極めてから進み出ること)

- 九、受上意時事(上意は謹んで受け、私見を扶まぬ)
- 十、不可爲雑談虚笑事(雑談、談笑などを慎むこと)
- 十一、諸事可任人事(何事も適切なる者に任せること)
- 十二、讀書事(書を読むこと)
- 十三、宿老祇候時禮義事(常に礼儀を弁えること)
- 十四、不可申虚言事(嘘をつかぬこと)
- 十五、可学歌道事(歌道を学び品性を養うこと)
- 十六、乗馬事(乗馬の稽古を怠らぬこと)
- 十七、可撰朋友事(友とする者はよく選ぶこと)
- 十八、可修理四壁垣牆事(外壁・垣根の修繕)
- 十九、門事(門の管理を徹底すること)
- 二十、火事用事(火元を確認し、常に用心すること)
- 二十一、文武弓馬道事(文武両道を旨とすること)



早雲寺殿廿一箇条

花押

日常生活の基本について、慎み深く、質素儉約、読書、歌、友人の重要性などを述べている。早雲が質実剛健、信義深く、家臣への信頼厚く、誠実であることが一目瞭然である。

僅かな家来と共に強国に囲まれた小国を忍耐としたたかな外交、疾風怒濤の侵攻で領土を拡大、安定した地盤を築き上げた男は稀代の戦略家であった。領内では「四公六民」という当時では破格の低い年貢を堅持し、豊かな国を目指し領民から名君と慕われた。

北条五代記には「進みては万人を撫でん事を図り、退きては一身の失あらん事を恥づ、楽しみは諸侯の後に楽しみ、憂いは万人の先に憂ふ。中略、万民を憐み給ふ事、ふる雨の国土を潤すに同じ」と記され、東溪宗牧は「道号頌」の中で「東海路に武勇の禅人有り、諱を宗瑞という。中略、固(まこと)に一世の雄にして仏法中の人也」と評した。

参考資料：武士の家訓(桑田忠親)、家訓で読む戦国(小和田哲男)、小田原城天守閣、Wikipedia

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2023年8月30日